



『やってみる』をかなえる

校長 川原 哲郎

長かった夏休みが終わりました。この夏休みは、東京都に緊急事態宣言が出ていたこともあり、思うように活動できなかつたことが多かつたと思います。しかし、そんな中でも子供たちは普段できない活動や経験ができたのではないのでしょうか。子供たちから話を聞くのが楽しみです。

さて、この夏は「東京 2020 オリンピック大会」が開催されました。数々の熱戦が繰り広げられ、日本のアスリートたちも大活躍でした。私もテレビの前で声援を送っていました。そして、8月24日からは、パラリンピックが始まりました。アスリートが競技している姿を見ると、もの凄い努力を積み重ねてきたことが感じられます。

私は昨年度、車椅子バスケットボール元日本代表の神保康広さんの話を子供たちと一緒に聞く機会がありました。その時の話を少し紹介させていただきます。

神保さんは野球が大好きなスポーツ少年でしたが、16歳の時のバイク事故で脊髄を損傷し車椅子の生活になりました。失意と絶望の中、1年半に渡り引きこもりの生活を送ったそうです。そんなとき、熱心な友人の勧めで車椅子バスケットボールを始めました。このバスケットボールとの出会いを通して、「励まし応援してくれる友達存在を本当にありがたいと思った」「バスケットと出会って“知る”ということの大切さを痛感した」「行動(やってみる)することが一番大切!」ということを学んだと話されていました。

神保さんは、パラリンピック日本代表として4大会連続で出場しました。それだけでなく、障害者スポーツを学ぶためにアメリカに渡ったり、イギリス代表チームのサポートスタッフになったりと、常にチャレンジする気持ちを持ち続け、そして今もパラスポーツの普及活動や発展途上国における活動も視野に入れ活動しているということでした。話の最後に「できるかできないかではない。まず、『やってみる』をかなえてみよう!」と、子供たちに熱いメッセージを送ってくださいました。私はこの話を聞いて、学校や家庭で子供たちが「やってみる」と言える環境や、「やってみる」を認め、励まし、褒めてあげることが大切だと改めて思いました。

オリンピックやパラリンピックで活躍した(している)アスリートも、原点は『やってみる』だったのかもしれませんが。失敗したらどうしようと不安なことはたくさんあると思います。しかし、失敗を恐れてチャレンジしないのはもったいないことです。今日から2学期が始まります。芝小では、これからも子供たち一人一人の『やってみる』を応援し、その可能性を広げていきたいと思っています。

改めて、私たちは宣言します～体罰や不適切な指導のない学校・芝小学校～

東京都教育委員会では、7月及び8月を体罰防止月間として位置づけ、都内全公立学校における体罰の根絶を図るべく、各学校で研修を行うこととしています。本校でも、“体罰や不適切な指導のない学校・サービス事故を起こさない学校”であるために、学校全体で体罰防止や指導力向上に向けての自己点検や研修に取り組んでいます。今年度のスローガンは次のとおりです。

チームで対応! 子供に寄り添い、温かな指導

芝小に新しい先生がいらっしゃいました。

5年2組 担任 宇田川 徹先生 です。9月1日より勤務します。よろしくお願ひします。

井上 翔太先生は、都合により8月31日をもって、退職されました。